

(夕刊)



発行所 日曜大衆
一月二十五日
一月二十五日
一月二十五日

十八名結束の計畫 役場派暗中飛躍

一波萬波を起したる

請求町會後のとたく

平町議から撰まれた委員五名が唐土氏の磐中校長は昭
名の同町一般事務に對する和三年以來出入三年で二回
檢閲は十八日に引續いて十の卒業生を出だし其沈着な
九日は午前九時から行はれる人爲は校外外に慕はれて
たが其結果は諸税の滞納處を明治四十二年東京高師
置に町當局への督勵を興ふ卒業と同時に香川師範教諭
るものが多かつたらしく此を振出しに徳島師範教諭を
點若干の効果を認められて經過大正十一年安積高女校
る尚ほ過般の請求町會より長となつたのが最初の本縣
り端なくも渦を起した議員入りで後田村中學校長に轉
卅名の其後の動搖は成ゆきし爾來今日に至る兵庫縣出
に頗る注目すべきものが多身の人で本年四十六才、後
く少數の役場擁護派に侮り任は未定であるが磐中同窓
難い活躍を演じられ大体内會等に於ては縣下から之れ
八名の同志を見込みをつけを望むとすれば長谷相馬中
てゐるらしいが斯の如きは同學校長だと唱ひられてゐる

じく過般の請求町會の結果
を逆比例するもので甚だ好
ましくない前途を招來する
困つたものだと心あるもの
に苦々しく感じられてゐる

奈良へ榮轉の 磐中校長

後任は未定

磐城中學校長唐土勝治氏は
今回奈良縣立郡山中學校長
に榮轉し近く赴任の筈であ

三萬貫を見込む 四倉市場

開設以來の
最高レコード

四倉市場に於ける十八日
は白千五百三貫七百三十三
貫合計千七百八十四貫余
の出荷で相場は依然白掛目

市場と組合の紛争 愈々圓滿解決か

調停案は既に内定し來る

廿二日野上課長來平して

平町魚市場對石城鮮魚組合の
紛争は依然繼續されてゐる
ので縣會議員鈴木辰三郎
氏其他調停の勞をとつてゐ
るが最近愈々妥協がついた
らしく仲裁案の内容は詳細
でないが鹽乾物に對する組
合側の希望其他市場側に於
ても出來得るだけ容認する
もの、如く兩間の下相談は
既に内定せるを傳へられ縣
參事會で出願する前記鈴木
氏は來る廿二日野上商工課
長と共に來平直ちに同案に
よつて圓滿なる解決をつけ
られる模様である。

漸く賣却 舊平署廳舎

百五十圓で

元平署廳舎は石城公共團體
事務所に引き取られた廢骸を
晒してゐたが署長官舎を併
せて十九日平消防組に百五
十圓で賣却された。

右眼珠を 突貫かる

古川鑛の
撰炭夫頭

石城郡好間村古川炭鑛撰炭
場人夫頭田村郡瀬川村大字
新館生佐藤美喜男(三七)は
しに引かされたばかりで
ふのは上方すしのつけ方で
お飯にすを混ぜて桶の様な
ものに入れ上蓋をして其上
に石をのせて押してつける
のである。

夫の知らぬ間に 財産が妻の名義

内縁の妻と子を挟んで
紛糾する神谷村の農家

石城郡神谷村の農家熊太
郎(三三)は分別盛りに資産を
關係上愛兒の養育料も支給
浪費すると云ふので數年前
出來ない爲に紛糾が遂に表
準禁治産に處され爾來妻と
の(三三)との間に兎角面白
い相談所の取なしで二百圓
らす悶々として日を暮らし
つるに與ふることとなつ
てゐる折柄郡内永戸村大字
合戸遠藤つる(三三)と心安
にしても熊太郎の腑に落ち
くなり自家を離れて上小川
村其他に同棲し二人の間に
うに見てゐる模様であるか
も(三三)の子までもうけた
ら結局は文書偽造等による
が去頃から同家の將來を氣
訴訟が持上るだらうと云は
れてゐる。

國民學校

教育分區主義とは右の單
位とした範圍を一分區とし
て其分區内の國民教育の徹
底を期することを目的とし
るものであります。而して
其國民教育とは今日の小學
校教育と中等教育とを含む
ものであります。これより
其系統及組織の概要を述べ
ることいたします。

一、現制度の如き中學校
高等女學校、實業學校を
廢す、

前篇に於て其大要を申し上げ
ました様に現制度の中等學
校では十分に其目的を達す
ることが出來ませんし、教
育の機會均等とか教育の地
方化など、いふ方面から見
ても之を全廢すべきもので
あります。

二、教育分區内即ち市町村
内に國民學校を置く其經
費は國民支出とす

小學校と云ふ名稱はどう云
ふ意味で命名したものでか
かりませんが「小」と云ふ字
義には「幼ないもの」など、
いふ意味があるところから
大學に對し幼ないもの、學
校即ち小學校と稱したので
は、いかと考へられますが
何れにしても「小」といふ字
は狭い、弱い、短い、軽い
すくない、僅か、すこし、細
い、心ねぢけたる者、品性
よろしからざる人、小人、
劣、下賤のもの、いやしき
人等の字義をもつて居るも
のでありますから敢て獨逸
の眞似をするわけではなく
如上の理由によつて改稱す
るのであります。

業組合總會

濱通蠶種同

濱三郡蠶種同業組合では來
申添へるがすしの重石と云

排句

五月雨の記 (四)

滿壽莊主人

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

圓四十八錢、黃蘭最高三
圓六十五錢、最低二圓八
十八錢、剛三圓三十六錢

胡摩化す

平町銀治町に石川組出張所
として春蘭を買入れてゐる
神谷村大字鎌田字岸松本喜
作(三三)は蘭計量に用ふる籠
の「フータイ」四百五十目
ものを五百目と偽り一回に
付て蘭五十目、を本田富
七外三十三名から胡摩化し
てゐたことが十八日平署の
レコードである。

漸く賣却 舊平署廳舎

百五十圓で

右眼珠を 突貫かる

古川鑛の
撰炭夫頭

夫の知らぬ間に 財産が妻の名義

内縁の妻と子を挟んで
紛糾する神谷村の農家

國民學校

教育分區主義とは右の單
位とした範圍を一分區とし
て其分區内の國民教育の徹
底を期することを目的とし
るものであります。而して
其國民教育とは今日の小學
校教育と中等教育とを含む
ものであります。これより
其系統及組織の概要を述べ
ることいたします。

排句

五月雨の記 (四)

滿壽莊主人

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

鬼質の句はすしのおもしろ
した石になくじりが這つ
て居ると云ふのだから随分
じめじめした句である一寸
がとけて油と一處にボタボ

本の
の
器 藏 冷

製造元
丸器藏冷

平町三丁目 電話三五九番



恐怖時代の
動脈硬化症
豫防及治療 **新薬**
アイヨー錠

試用二圓
中瓶六圓
大瓶廿圓

發賣以來
白熱的に
歡迎せらる

特約店
山野邊藥局
平町五丁目

サロン

いつも生ビールが冷えます
キレイな座席で気持ちよく
フランス料理の献立

平町 電話三五二



関内商店

ガソリン
モーター油
日本石油
株式会社
特約販賣

油問屋
支那前大通
支那前大通
支那前大通

支那前大通
支那前大通
支那前大通

支那前大通
支那前大通
支那前大通

玉屋洋品店

平町四丁目 電話六五九番



川井診療所

内 科 一 般 科

醫學士 川井重之
女 醫 川井安子

磐城平町南町六五
電話七二二番

看護婦

急派の求め
に應じます

平看護婦會
電話三〇七番

スペイン G.H.N 元 詰
甘味葡萄酒
ゴルフポートワイン
¥ 1.10

御婦人の方には少し水を加へて
召し上るご風味一そう佳良です

電話 西村屋薬舗 (三番)

市原醫院

内 科 外 科
小 兒 科
梅 毒
淋 病

平町 電話四一四番

内外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

高久病院

平町。電話五一三番
院長 醫學士高久忠

藤沼醫院

平町 電話七〇五番

夏物浴衣地特賣
伊関吳服店

豆と晒あん

北海道のよいお豆
純小豆製のよい晒あん

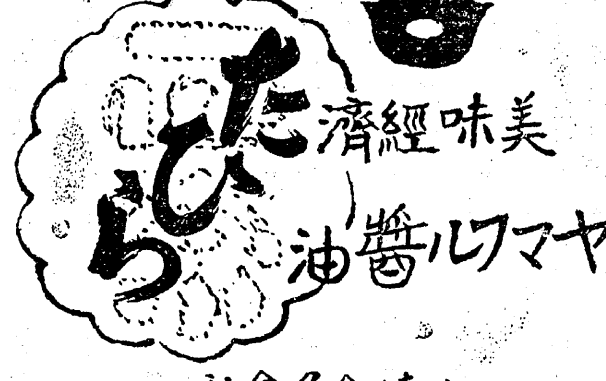
田巻隆一商店
平町紺屋町十三・電九〇八

お電話なり下さる
ば多少に拘らずお
届申上げます。

美味經濟

山崎合名社

電話十番



父教養院鐵心日雄居士

告別式の際は御多忙中遠路態々御
焼香被成下且御鄭重なる御香奠を
賜はり御厚情の段奉拜謝候茲に乍
略儀以書中御厚禮迄如斯御座候

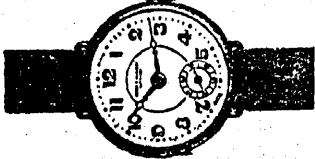
昭和五年六月十九日 敬具

嗣子 加治孝司
親戚總代 端山正男
友人總代 青沼鋒太郎

精幸堂時計店

時計と修理の御用命は
蓄音器橋通り
平町土橋通り
セーコー

示時正確 大々の勉強



生徒募集

磐城自動車學校 (平町四軒町)

公認

◆本校内容は先づ卒業生に聴け
本科一ヶ月五拾圓受験料一ヶ月拾圓其他短期科
夜學科あり學則送る

突然！東北の野に彗星の如く現はれ常に斯界をリ
ードし來れる本校茲に創立滿一箇年を迎へ其の基
礎愈々堅實に内容益々充實せり。
見よ！斯界に既に運轉手として奮闘しつゝある數
百の本城卒業生の活躍振りをして！
不景氣知らずの運轉手たらんとする士よ！最も經
費少く 而も一番早い近路である斯界の
權威

清林定なおを救ふ
の散財をかるく
料理 青沼鋒太郎
平町四丁目電話二〇番